

ル良法ナリ。維新以後、陸海軍ノ軍隊ニ於テハ、被服害蟲ノ驅除法ニツキテ、種々ノ苦心ヲツクサレ、或時ニハ蒸氣殺菌法ヲ行ヒ、或ル時ニハ片腦油殺菌法ヲ施シタレドモ、イヅレモ利害相伴ヒ、即チ前者ニ於テハ、革類乾固シ、軟弱ト成リ使用ニ堪ヘザルニ至リ、後者ニ於テハ、其ノ油羅紗ノ目ニ浸ミ込ミテ、始末ニ困却セリ。イヅレノ場合ニ於テモ、多額ノ費用ヲ要シテ、當時ノ殺菌驅蟲法ノ經費ハ一萬七千圓ニ達セリ、然ルニ爾來ニ硫化炭素法ヲ行フニ至リテ、僅ニ八百圓ニ減却スルヲ得タリ。其ノ分量ハ部屋ノヒロサ千立方尺ニ對シ「ホルマリン」ハ三乃至五封度(一封度十二錢位)ニテ足リ、若シ被服ヲ堅ク疊ミ込メル物ナラバ、曝晒スル時間ハ一晝夜、擴ゲタル衣類等ニテハ、三乃至五時間ニテ事足ルベシ。

五、新聞紙ハ衣服ヲ包ミテ驅蟲ノ効アルガ如シ、是ハ恐ラク其ノ害蟲ガ印刷用インキヲ嫌フガタメナルベシト云フ。

六、火熨斗衣類ヲ疊ミ、仕舞ヒ込マントスルニ當リ、是ニ火熨斗ヲ掛クル事ハ有効ナル一殺蟲法ニシテ、是レ産ミ附ケラレタル卵ハ勿論、微菌ノ孢子ノ如キモノモ炙殺セラレ、以テナリ。

以上述ベタルガ如ク、吾人ガ屋内害蟲ノ爲ニ受クル所ノ害ハ莫大ナリトイフベシ、其ノ驅除及ビ豫防法ヲ講ズル事ハ小ニシテハ個人經濟ノ爲メ、大ニシテハ國家經濟ノ爲ナリ。

殊ニ家ナルモノニ最モ親ミ多キ吾人女子ハ、先ンジテ彼等害蟲ニ就テ確實ナル知識ヲ有シ、以テ被害ヲ免ル、方法ノ實行ニ努ムベキナリ。

## 古來ノ想像動物ニ就テ

理科第二部第四學年生 松本 うら

一、辰 辰ハ即チ龍ニテ、全ク想像上ノ動物ナリ。和名抄ニ「身ハ大蛇ニ似テ、脊ニ八十一ノ鱗ヲ具ヘ、手足ニ各々五本ノ指アリ、角二本、耳アリ、面甚ダ長ク、最モ猛烈ナル相ヲ呈シ、鱗蟲ノ長ナリ、能ク雲ヲ起シ、雨ヲ呼ビ、神靈測リ難シ」トアリ。

又本草綱目ニ「龍ノ形ニ九似アリ、頭ハ駝ニ、角ハ鹿ニ、眼ハ鬼ニ、耳ハ牛ニ、頂ハ蛇ニ、腹ハ蜃ニ、鱗ハ鯉ニ、爪ハ鷹ニ、掌ハ虎ニ似タリ。脊ニ八十一ノ鱗ヲ具ヘ、其ノ聲銅盤ヲタ、クガ如シ、口ノ傍ニ鬚髯アリ、頷ノ下ニ明珠アリ、喉ノ下ニ逆鱗アリ、頭上ニ博山アリ、尺水ト名ヅク、其尺水ナキハ則、天ニ昇ル事能ハズ、氣ヲフキ雲ヲ興シ、水ニ變ジ、又ヨク火ニ化ス。

性ハ犇猛ナレドモ、美玉青空ヲ愛シ、好シク燕肉ヲ食シ、鐵、燕麥、蜈蚣、煉葉、五色ノ糸ヲ畏ル、故ニ燕ヲ食フモノハ水ヲ渡ル事ヲ忌ミ、雨ヲ祈ルモノハ燕ヲ用ヒ、水患ヲ鎮ムルモノハ鐵ヲ用ウ。龍ハ春分天ニ昇リ、秋分淵ニ入ル」トアリ。サレバ龍トハ全ク蛇ト鱈魚トヲ併セ、其レニ角ト耳トヲ附シタルガ如キモノナリ。たつハ即チ起ノ義ニシテ、其ノ天ニ昇ルヲイヒ、古ニハ蝮蛇ヲモたちトイヘリ。凡テ龍蛇ノ類ヲたつ又たちトイフハ、只其ノ語ノ轉ジタルモノト思ハル。古事記ニハ「海神ノ女、豐玉姬ノ此ノ國ニ來給ヒシ事ヲシルサレテ、自ラ大龜ニ馭ストモ、又龍ニ乘リテ來リシトモアリ、



又仁徳天皇ノ御代ノ末ニ吉備中國川島ノ河流ニ大蛇アリ、其ノ毒ヲ被リテ死スルモノ多カリケレバ、笠臣縣守淵ニ入リテ之ヲ斬リタリ依テ其ノ水ヲ縣守淵トイフ事日本紀ニ見エタリ。みづち、みハ水ニシテ、つちハ神ナリ、即チ水神トイフガ如シト。

二、鯨<sup>シヤチ</sup> コノ動物ハ俗間ニ畫カ、ルガ如キ鱗ヲ有スル魚族ニアラズ、水棲獸類中有齒鯨類ノ一種さかまたニシテ性兇暴ナリ。其ノ牙ハ質緻密堅牢ナルヲ以テ彫刻材ニ供セラル。

三、人魚 古來人魚ト名ツケ、半人半魚ノ動物ナリト稱セルハ、到底無稽ノ妄想タルヲ免レズト雖モ、カク想像セラレタル動物ハ蓋シDugong (儒艮)ノ類ナルベシト云フ、儒艮ハ琉球近海ニ多キモノニシテ其ノ土語ヲざんのいをトイフ。其ノ肉ハ美味ニシテ、或人ハ牛肉ニ似タリトイヒ、他ノ人ハ豚肉ニ近シトイヒ、脂肪モ赤美味ニシテ能ク久シキニ堪フト稱セラレ、昔時ハ琉球ヨリコノ動物ノ皮及ビ肉ヲ貢物トシテ支那ヘ送リシトイフ。儒艮ガ其ノ鰭狀ノ前肢ヲ以テ幼兒ヲ抱キ、頭ノミ水面ニ露出シテ水ヲ泳グ狀ヲ遠ク望ムバ、人間ノ游泳スルニ似タル所アリトイハル。徳川時代ノ本草家小野蘭山先生ノ魚譜ニハ、魚身人面ノ幽靈的怪物トシテ其ノ繪畫マデモ載セラレタリトイフ。性質ハ温順ナルガ故ニ、網ニテ搦メ捕リ又ハ淺瀬ニ追ヒ込ミテ之ヲ殺ス。時トシテハ群ヲナシテ河ヲ溯ルコトアリ、此ノ時ハ老大ニシテ最モ強キ牡先頭トナリ、多クノ牝コレニ從ヒ、幼兒ハ其ノ中ニ保護セラルト云フ。 歐洲ニテモ俗ニコレヲ

“Women of the sea” ト稱ス、以テ其ノ人ニ似タルヲ知ルベシ、印度洋及ビ紅海ニ産ス。

四、河童<sup>カフ</sup> 俗ニ[河童ニ引カレル]トイフコトアリ一體河童トハ如何ナル動物ナリヤトイフニ、本草綱目啓蒙ニ曰ク[諸州皆アリ、濃州及ビ筑後柳川邊最モ多シトイフ。凡ソ舊流大江邊ニ時々出デ、兒童ヲ魅シテ水ニ沈メ、或ハ人ヲ誘ヒ角カシテ深淵ニ引キ入ル、其ノ體甚ダ粘滑ニシテ捕ヘガタシ、胡瓜及ビ白柿ヲ好ミ、白柿三個ヲ食ヘバ能ク酔フ、其ノ形ハ人ノ如ク、兩眼ハ圓クシテ黃色ヲ帶ビ、鼻ハ突出シテ獼猴ノ如シ、口ハ大ニシテ狗ノ如ク、齒ハ龜齒ノ如シ、頭ニ短髮アリ、額上ニ一孔アリ、深サ一寸、上ニ蓋アリテ蛤ノ如シ、面ハ青黑色、背ノ色ハ龜甲ノ如ク其ノ堅キ事モ又同ジ、腹モ龜甲ノ如クニシテ黃色ナリ、左右ノ腋下ニ一道ノ堅條アリ、柔軟ニシテ白色ナリ、コノ所ヲ執ルトキハ動ク事能ハズ、手足ノ形ハ人ノ如ク青黑色ニシテ微黃ヲ帶ビ、四肢短クシテ爪長ク指間ニ蹼アリ、手足ヲ縮メル時ハ甲ノ間ニカクル、事龜ニ異ナラズ、手足ノ節前後ニ屈スルコト人ニ異ル]ト。三才圖會ニ[川太郎ハ西國九州ノ溪間池川ニ多クアリ、形十歳許ノ子供ノ如ク裸ニシテ能ク立行シ、人ノ言ヲ話シ毛髮短ク、頭ノ頂凹ミテ一掬ノ水ヲ盛ル、常ニ水中ニ棲ミテ夕陽多ク河邊ニ出デ瓜茄子ノ圃ヲ荒ラス]トアリ。又或ル書ニ[水虎(河童)ハ三四歳ノ小兒ノ如ク、甲ハ鯉ノ如ク、堅クシテ射ルモ矢立たズ、秋砂上ニ出デ、甲ヲサラス。常ニ水ニ没シ、膝ヲ出シテ人ニ示ス、小兒若シコレヲモテアソベバ忽チ捕ハル]ト。思フニ、河童或ハ川太郎ナルモノハ、假想的動物ナルコト勿



論ニシテ恐ラク泥龜ノ類ナラン。

五、<sup>ス</sup>鶴（鶴）此ノ動物ニ就テ歴史上有名ナルハ近衛院ノ時怪鳥アリ、夜毎ニ鳴キテ殿上ヲ渡ル、人皆鶴トイヒタリ。コレヨリ天皇御病アリ、醫師モ祈禱モ驗ナシ、コヽニ於テ源三位頼政ニ命ジテコレヲ射サシム。頼政立ツテ殿上ニアリシニ、夜半ニ怪鳥鳴ク、黒雲ノ中ニ其ノ聲ヲ的トシテ矢ヲ放チ、コレヲ射落セリトイフ。サレド、所謂鶴ナルモノハ如何ナル形狀ノモノナルカ、明記セルモノナケレバ知ルニヨシナシ。

和名抄ニ「鶴ハ怪鳥ナリ、晝伏シテ夜出ヅ、故ニ鶴ト書ク」トアリ。本草綱目ニコレヲ論ジテ曰ク「鶴ト稱スルモノハ怪鳥ニアラズ、諸所ノ深山ニ多シ、大サ鳩ニ類シ、黄赤色ニシテ黒斑アリ、晝伏シ夜出デ、木ノ梢ニ鳴ク、其ノ嘴ノ上ハ黒ク下ハ黄ナリ、鳴クトキハ四方ノ深林ニ反響シ其ノ聲「ヒューヒュー」トキコユト。動物學上ヨリコレヲ見レバふくらふ或ハみみづくノ類ト想ハル。

六、天狗 治鳥ハ天狗ナリトイハル、モ、治鳥トハ如何ナル鳥ナルカ不明ナリ。天狗ニ就テ本草綱目ニ「越地ノ深山ニアリ、大サ鳩ノ如クニシテ青色、木ヲ穿チテ巢ヲ造ル、木ヲ伐レバ其ノ人ニ崇リテ家ヲ燒ク、形モ鳴聲モ鳥ニ類スレドモ、或時ハ人ノ形ニ變ジ、溪ニ下リテ蟹ヲ取り、火ニ炙リテコレヲ食フ」ト記セリ。林羅山ノ曰ク「日光山ニ天狗ノスメルハ、恰モ大海ニ鯨ノスムニ等シ、但シ天狗ナルモノニ關スル恐怖的ノ昔噺ハ所謂修驗者ノ世俗ヲ惑ハス爲ニ作リタルモノニテ、毫モ恐ルベキモノニアラズ」ト。又或ル書ニ「素

蓋鳴尊剛氣胸腹ニ滿チ餘リテ息ヲ吐キ此ノ氣化シテ天狗ト成リ、元姫神ニシテ軀ハ人ノ如ク、頭ハ獸ニシテ鼻高ク、耳長ク、牙又長シ、意ニ適ハザルコトアレバ大イニ怒リ、大力ノ神モ其ノ鼻ニカケテ千里ノ外ニ彈キ飛バサレ、銳利ナル刀劔モ其ノ牙ニテ碎カルトアリ。次ニ天狗ノ爪ト稱シテ往々我ガ國諸地方ヨリ發掘サル、モノハ、實ハ地質時代ニ於ケル鯨魚ノ齒ノ化石ニ外ナラズ。

尙古來俗間ニ天狗ニツマヽレ、或ハ天狗ニ浚ハレタリトノ傳説アリキ、コレニツキテハ、心理學上或ハ病理學上ニ種々ノ説アルガ如シ。今其ノ一説ヲ取リテコレヲ陳ベン、一體人間ノミナラズ、動物ニ於テモ下肢ハ先天的ニ不相稱ナルモノニシテ左脚ハ右脚ヨリモ長シトイフ。人間或ハ動物ガ一度進路ノ方向ヲ失ヒタル時、往々表出セラル、圈環運動ナルモノハ、コレニ依テ理解スルヲ得ベシトス。此ノ事ニ關シ、多クノ報告ヲ發表セルハグルトベルヒ氏ニシテ氏ハ犬、家兔等ニ就キ、運動ノ方向ヲ定ムベキ眼及ビ耳ヲ覆ヒテ、極メテ靜カナル水面ヲ游泳セシメシニ、其ノ進路ハ一大圈ヲ描ケリ、又眼及ビ耳ノ作用ヲ廢絶セル鳥類ヲ無風ノ空中ニ翔ケサシメシニ、亦同様ノ事實ヲ認メタリト。

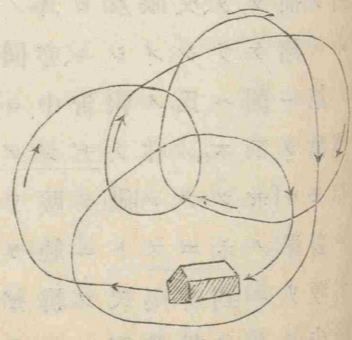
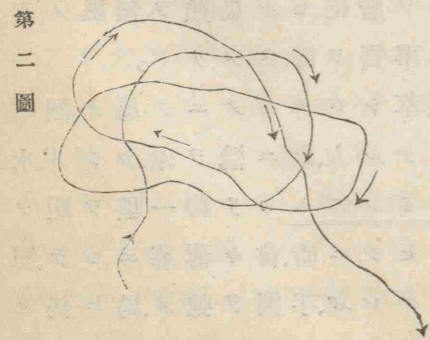
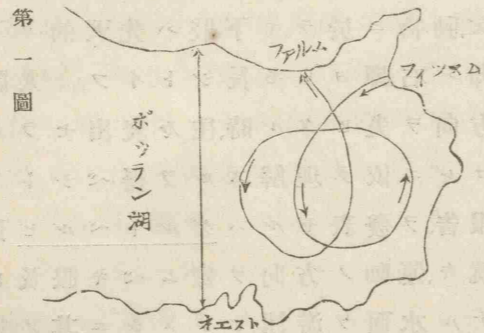
第一圖ハ氏ノ報告中ヨリ拔萃シタルモノニテ馬ノ圈環運動ヲ示ス。嘗テデブダールナル人、馬ニ轡ヲ牽カシメ、氷結セル「ボツテン」湖ヲ跋リテ、フイツスムヨリ約一里ヲ距ツル對岸ノネエストニ赴カントセシニ時、會々薄暮ニシテ、風雪頻リニ到リ咫尺ヲ辨ゼザリケレバ、手綱ヲ弛メ、馬ニ任セテ走ラシメ、數時間ニシテ漸ク湖岸ニ到着シタルニ、豈圖ラ



ンヤ、コハ、出發點ヨリ程遠カラヌフアルムナリキ、後馬ノ踪跡ヲ追求セシニ、實ニ圖ニ示スガ如クナリシトイフ。ロシヤ、ノルウエー等ニ於テ、斯ノ如キハ屢々遭遇スル事實ナリトイフ。

第二圖ハ、氷原ニ於テ狐ヲ狩セシトキノ其ノ踪跡ヲ示シタルモノナリ。

第三圖ハ、濃霧ノ日、午後ヨリ曉ニカケテ人ガ原野ヲ彷徨シタル跡ナリ。世俗ニ所謂天狗ニ撮マルト稱スルハ、即チカ、ル類ノ事ナルベキカ。



七鳳凰 本草綱目ニ「形ハ鴻ノ前面ニ、麒麟ノ後面ヲ合セ、燕ノ頷、雞ノ嘴、蛇ノ首、魚ノ尾、鶴ノ額、鴛ノ頸、全身ニ龍紋アリ、龜ノ背ニ似テ羽根ニ五采ヲ具ヘ、高サ四五尺、四海ヲ飛ビマハリ、天下道アルトキ現ハレ、翼ハ竿ノ如ク、其ノ聲簫ノ如シ。生蟲ヲ食セズ、生草ヲ折ラズ、群居セズ、梧桐ニアラザレバ棲マズ、竹ノ實ニアラザレバ食セズ、清泉ニアラザレバ飲マズ、其ノ鳴ク聲律呂ニアタリ、飛ブトキハ諸鳥コレニ從ヒ、雄ヲ鳳トイヒ、雌ヲ凰トイヒ、天ニアリテハ朱雀ト成ル。羽根ニアル蟲三百六十、鳳ハ鳥ノ長トナル故ニ字ヲ凡ト書ク、其ノ種類四ツアリ、赤、青、黃、紫ニシテ夫々名ヲ異ニス。南思州北甘山ハ、高サ數丈ノ壁ヲタテタルガ如ク、山猿モ尙是ニ到ル事ヲ能クセザルニ鳳凰ハ其ノ上ニ棲ミ、大風雨ニ遇ヘバ其ノ雛自ラ墜落ス、其ノ雛ノ小サキモノ鶴ノ如シトシルサレタリ。

八鬼 ソモソモ鬼ナルモノ、圖ヲ見ルニ、牙ト角トヲ有スル怪異ノ狀ヲ呈セリ。動物學上ヨリコレヲ見ルニ、銳キ牙ヲ有スルモノハ猛獸ナレドモ、角ヲ有スルモノハ其ノ性多ク温和ニシテ、牙ト角トヲ併有スルモノハ極メテ稀ナリ、遇々併有スルモノアリテモ、一方ハ甚ダ不完全ナリ。コノ一事ニ於テモ、鬼ナルモノハ全ク妄想的ノ動物ナルコト推シテ知ルベシ。

九山獠 或ル書ニ「深山ニ住ミテ男子ノ形ヲ呈シ晝ハカクレ、夜出ヅ、木ヲ伐ル者、數日間、深山ニ宿レバ、來リテ蟹ヲ炙リ食フ、人コレヲ害セントセバ山男夙ク悟リテ逃ル、故ニ銃劍ノ類ヲ携フルコト能ハズ、竹ヲ燒キテ節ニ至レバ必ズ一



種ノ爆音ヲ發スベシ、山男ハコレヲ豫知スルニ由シナク其ノ音ニ驚キテ逃ゲ去ルト、想フニ、是ハ狒々ノ如キヲ指スナランカ。

十、野女 三才圖會ニ「野女ハ南國ニアリ、黄ナル髮ヲ垂レ、裸體跣足ニシテ山谷ヲ跋涉スルコト猿ノ如シトイヘルハ、恐ラク猩々ナドノコトナラン。

十一、山精 精ナル語ヲ有スルモノ多シ、山ノ精、海ノ精、森ノ精ナドアリ。今山ノ精ニ就テ或書ヲ見ルニ「山鬼アリ、形人ノ如ク一脚ニシテ長ケ僅ニ一尺、常ニ石蟹ヲ採リテ炙リ樵夫ノ鹽ヲ盜ミ、コレヲ附ケテ食スト。又他ノ書ニ「山ノ精ハ人ノ如シ、一足ニシテ長ケ三四尺、山蟹ヲ食シ、夜出デ、晝カクル、千歳ヲ歷タルひきがへるハ、獨リヨクコレヲ捕ヘ食ストイフトアリ。カクイハル、動物モ、本體ハ猿ノ類ナルベシ。

十二、一寸法師(侏儒) Cretinism.

童話ニ現ハル、一寸法師ハ、常人ノ及バザル程智ニ富ミ、不可思議ナル力ヲ有スルガ如クナレドモ、醫學上ノ一寸法師ハ決シテシカルモノニアラズ、全ク病的ニ生ズル一種ノ畸形態ナリ。コノ病ハ地方病トモ謂フベクシテ、歐洲ニテハスウイス、ピレネー、アルプス等ノ山地ナリ、其ノ他南北アメリカ、オーストラリア、アフリカ、アジア諸洲ニモアリ、其ノ原因ハ先天的ニ身體各器官ノ發達不完全ナルニ歸シ、殊ニ主因ト認メラル、ハ、甲狀腺ノ缺乏スルカ又ハ發達ノ不十分ナルニアリテ、心身共ニ遠ク常人ニ及バザルモノナリ。Cretinismニ就テノ更ニ詳細ナル記載ニ依レバ、頭ノ形及

ビ大サガ普通ノ人ト異ナリ、頭蓋ハ多ク短頭ナレドモ、稀ニハ長頭ナルモノアリ。眼ハ凹ミテ眼光鈍ク、眼瞼ハ厚ク突出シ、顔色ハ青白ニシテ皮膚ハ乾燥シ、厚キ舌ハ唇ノ上ニ垂レ、常ニ口ヲ開キテ衰弱セル齒ヲ露出ス。胸ハ狭ク、背曲リ、呼吸ハ喘息ノ如ク、足ハ短ク、膝ハ内方ニ曲リテ蹠ハ平ラナリ。十分成長シタル最高ノ者モ、四呎ヲ越エズシテ、多クハ三呎以下ナリ、髮ノ毛ハ馬ノ毛ニ類シ、且普通ノ一寸法師ニハコレヲ缺ケリトイフ。智力ハ、成人ノ後ニモ三四歳ノ子供ニ等シク、言語ハ勿論起居サヘモ自ラ能クセズ。聲ハ枯レ、聽ク者ヲシテ不快ノ感ヲ起サシム、コレ皮膚ノ乾燥セルト同様ニ聲帯ノ乾燥セルニ因ルナルベシ、嗅覺ト味覺トハ稍々發達スルモ、多クハ全然聾ニシテ、只視力ノミ普通ナリト。

要スルニ、此ノ如キ畸形ハ前述ノ如ク身體各部ノ不完全ナル發達ニヨルモノナレドモ、特ニ甲狀腺ノ與ル所多シト言ヘバ、少シク此ノ腺體ニ就テ述ブベシ。

人體ニハ、特殊ノ液體ヲ作リテ之ヲ分泌スル腺體二種アリ。第一種ハ唾腺、胃腺、腎臟、汗腺、粘液腺ナドノ如ク一定ノ分泌物ヲ作り一定ノ導管ニヨリ漏出シテ、定所ノ目的ニコレヲ使用ス。

第二種ノ腺ハ甲狀腺、胸腺、副腎等ニシテ其ノ構造ヨリ考フレバ、何等カ固有ノ物質ヲ分泌スル腺體タルコト明カナレドモ、一モ導管ヲ有セズ、從ヒテ其ノ分泌ガ果シテ如何ナル用ニ供セラル、カ、永ク未決ノ問題ニ屬セリ。然ルニ、學者ノ苦心研究ノ結果、コレラノ諸腺ハ何レモ其ノ分泌物ヲ



直接血液ニ傳へ、カクテ血行ニツレテ全身ヲ循環スルニ際シ、一定ノ器官ニ化學作用ヲ發作シテ、其ノ器官ノ働ヲ鼓舞スルノ事實明カト成レリ、從テコレヲ内分泌ト名ヅケ、其ノ分泌物ヲ一般ニ「ホルモン」ト稱スルニ至レリ、「ホルモン」ハギリシア語ニシテ、興奮ノ義ナリトイフ。

サレバ、吾々ノ體ハ種々ナル「ホルモン」作用ニ依リテ甲ト乙トノ遠隔セル器官ヲ互ニ關聯シ、調和セシメテ、生活現象ヲ維持シ、又正常ノ發育ヲ遂グベキモ、若シ「ホルモン」ニ過不及ヲ來スコトアラバ、新陳代謝ニ異常ヲ惹キ起シ、疾病ヲ醸スニ至ルベシ。今、甲狀腺ニ腫瘍ヲ發シ、切解ノ手術ヲケタル患者ヲ見ルニ、早晚其ノ身體ニ著シキ變狀ヲ來シテ、全身ハ腫クミ、皮膚ハ乾燥シ、運動ハ不活潑トナリ、殊ニ神經系ノ作用ハ一般ニ鈍弱ニ陥リ、就中小兒ニアリテハ、手術後骨ノ成育不十分ニシテ、所謂一寸法師ノ狀ヲ呈ストイフ。

病的ノ侏儒ニ對スル治療法ハ、皆無ナリシガ、一八九一年ニドクトル、ジョージ、モーレー氏ガ一度甲狀腺ノ皮下注射法ヲ發見セラレ、其ノ良否ニ就テ刀圭界ニ論議囂々タリシガ、一八九三年、十一歳ノ侏儒ニコノ療法ヲ施セシニ、彼ハ急ニ成長シテ普通ノ子供ト選ブ所ナク、學校ヘモ通學シ、十五年ノ後ニハ普通ノ人間ト成リタリト云フ。吾人ハ之レヲ以テ一寸法師ノ病的ナルヲ知ルベシ。

#### 參考書

本草綱目、三才圖繪、東雅、生物界ノ現象生物ト哲學トノ境、人性論

## 寄 稿

### 軍用「液火」に就き

教授 平田敏雄

今回の大戦には從來嘗て見ざる新らしき戦闘用具の獨軍により用ひられしは普ねく人の知る所なり其中の一に「液火」Liquidfireなる名稱にて新聞紙などにて傳へられたるものあり本年六月二十四日發行のサイエンス・フック・アメリカン、サプリメント誌上に掲げられたる説明によれば恰も出火の場合に細長き導水管より勢づよく水を噴出せしめ燃焼物に水を注ぎかくるが如く可燃性の液を目的物に注加するにあり最初は發射首口より點火したるものなれど斯くては可燃液を途中にて消費し四〇—四五ヤード以上の距離に達せず且つ發射口に於て多量の熱を發生し使用者を大に苦しむるが故に現今使用のものにありては主副二管を用ひ主管は太くして可燃液の主量を射出する働きをなし副管は細くして可燃液の少量を射出する装置なり。

使用者は先づ副管を開き之に點火して長焰を生せしめ次に主管を開きて目的物に液を注加し副管焰の先端を主管より出づる液の任意の部分に觸れしめ點火するものにして斯くの如くすれば液は只だ遠方に於て燃ゆるのみにして使用者の手許に燃え來らず前掲の不便を去りて且つ目的物上に於て盛んなる燃焼を起すを得べし。

可燃液を射出するには最初は壓縮炭酸瓦斯を用ひしが此の瓦斯は甚だしく液に吸收せらるゝを以て徒に多量の